

## 5 企画提案の概要

### (1) 木質化空間の整備内容及び整備手法（デザイン）

#### 「山を知る」ゾーン

長い年月をかけて育まれた切り株は山のことを語る。切り株に寝そべる小さな子どもたちには森の春から夏、秋から冬の営み、そこに集った鳥や動物のことを伝えてくれる。腰掛ける大人には、自身が重ねた年月と年輪が語る年月を重ね合わせ、過ぎた日々のこと、これからのことなどに思いを遊ばせてくれる。切り株はそれらすべての人々の思いを受け止め、その本棚から手に取った本は山への思いも深めてくれる。

このコーナーには杉・桧などの切り株を中心に、広葉樹など関西一円で育つ木の切り株を用いて地球で生きる木の多様性・山の恵みの豊かさを感じ取れる場とする。

#### 「情報を知る」ゾーン

司書が来館者に勧めたい書籍や行政の催し物などの紹介をするコーナーであり、テーマに沿って企画される特別展示にも対応できるコーナーでもある。それらの情報は過去の歴史や文化であり、今この世界で起こっている事、そしてこれからの時代・未来を考えるものである。

車イスで訪れる人も手にとって見られるように椅子の座面程度の高さには平らな面があり、チラシなどを置けるようにする。またここには座ることもでき、幼い子どもを抱いた来館者などが腰を掛けてじっくりと催し物などの情報を得ることができる。

この壁木質化システムを構成する材料は、通常の建築で使われる規格材である。

105 mm角の柱材で作るフレームに、これも規格材として床材などにも使われる 150 mm巾 厚さ 30 mmの材を等間隔の隙間を空けて木製パネルを落とし込む。

等間隔の隙間を利用して、棚板やさまざまな大きさのBOXも設置する。また、パネルなどが掛けられるよう展示部材を準備する。等間隔の隙間を利用するという事で、必要に応じて棚板などの位置が自在に変えられる。すなわちフレキシブルな壁木質化システムである。

この木製パネルの一部には「木ロスリット材」という現在の科学で確認された木の空気浄化機能を持つ板材も使用する。老若男女、さまざまな人が集まるこの場所の空気を浄化すると共に、木の持つ機能の一端を知ってもらう場所とする。将来的にはこのコーナーで、タブレットやモニターなどを設置することも考慮するなど、大阪府全体の情報発信の拠点とする。

#### 「自分を知る」ゾーン

知の世界に深く入り込んだ心を一旦解放し、再び知の世界に入り込める準備をするゾーン。外部に広がる庭との対話を通じて、自分自身の心との対話を深めるということを繰り返す中で、新しい知や思いとの出会いが始まる。

ここでは「情報を知る」ゾーンと同様に規格材である 105 mm角の柱材でつくるフレームで上部の庇のような杉の垂木を支える構造とする。

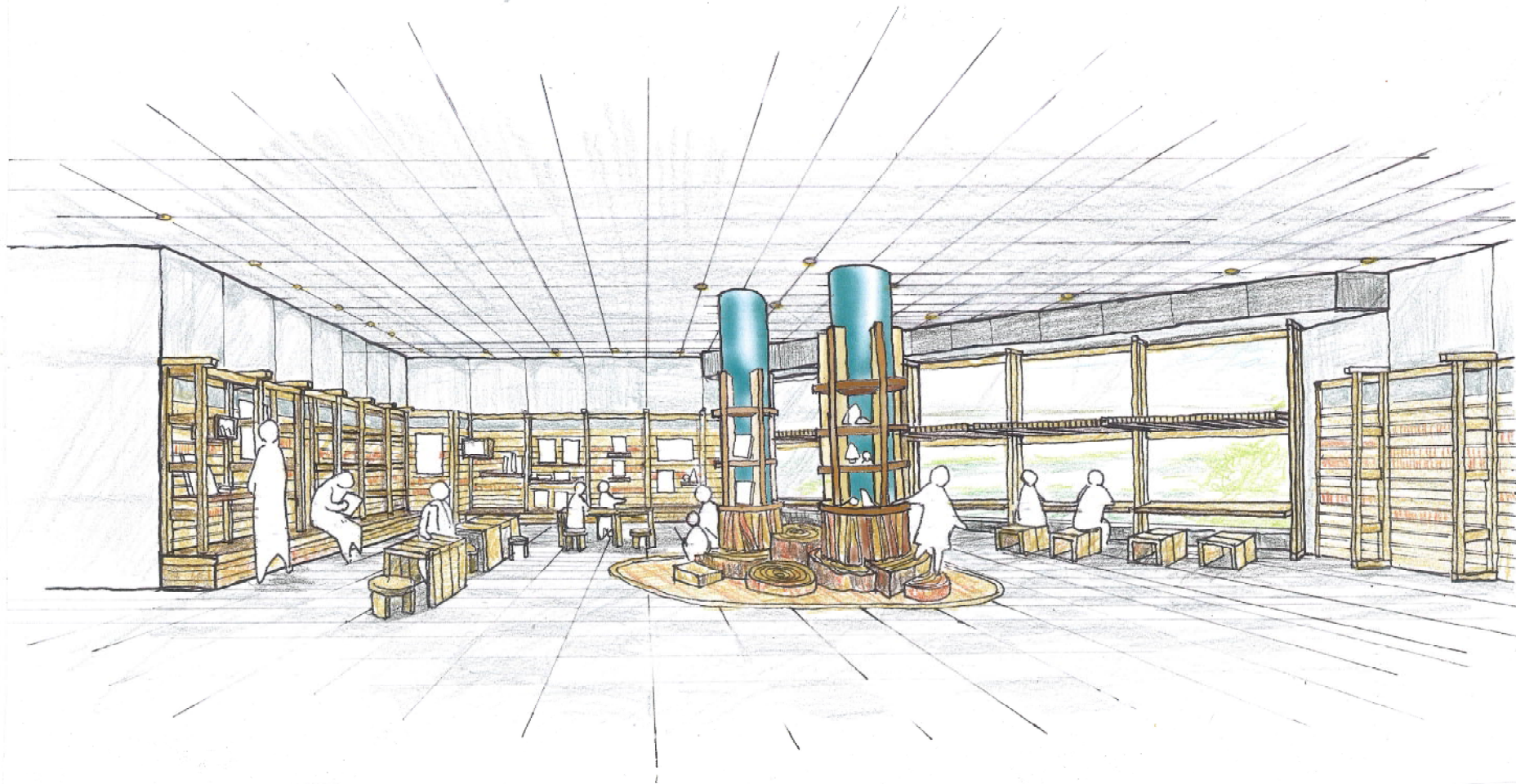
この垂木は外部の庭との視覚的なつながりを強調しつつ、高層のマンション群からの視線を遮る役割を果たす。他のゾーンの伸びやかな天井高さとは異なり、この垂木は天井高さをぐっと抑え、落ち着ける自分のための空間を醸し出す装置となる。

## 「つながりを知る」ゾーン

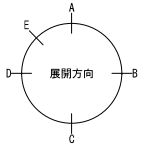
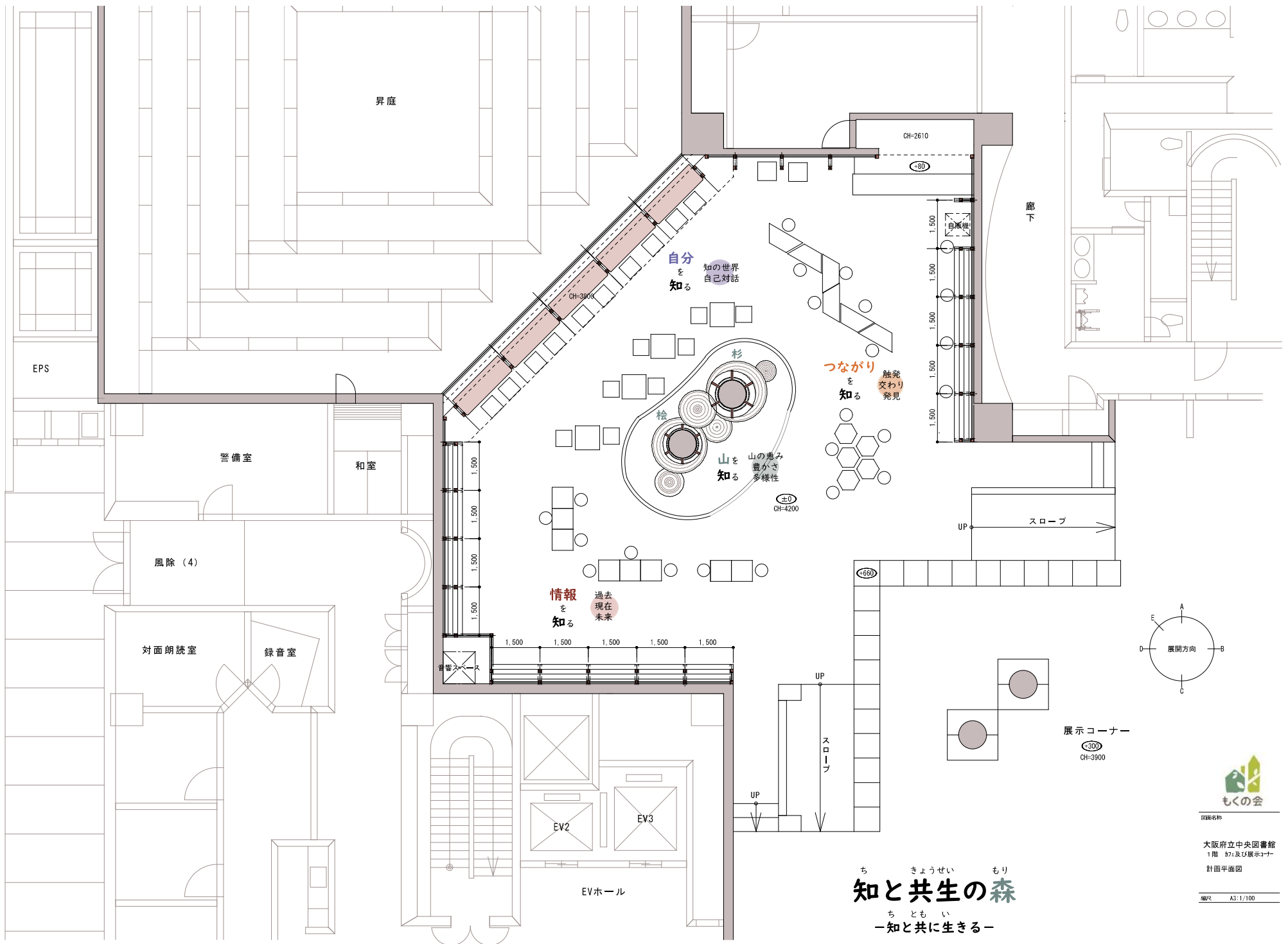
いろいろな形をしたテーブルが設置されたこのコーナーでは、知の世界に触発された思いを交流させ、つながりを感じるゾーン。感じ方が異なる人々が、それぞれの思いの中で生きている。そんな多様性を知ることができるのも、つながることを知ったからこそである。我々が生きているこの時代は、地球の温暖化や気候変動など多くの課題を抱えている。「山を知り、いろいろな情報を知り、自分自身を知った人々が様々なつながりを感じ、そのつながりを大切にしていくことが、すなわち今、世界すべての国の目標である SDGs の根幹に関わることだと再発見していく。

このゾーンで提案するそれぞれのテーブルはひとりで使える小さなものであるが、それを組み合わせることによって集まる人数に対応することができる。

また大阪府下の杉や桧などの天板と共に、近隣の広葉樹などの天板を使うことで木の多様性を知ることできる。ひとりひとり小さな個人であるが、多様な人々がつながることで様々なことに対処していくことができる、そんなことも気づくことができるゾーンである。



もくの会  
完成イメージ  
大阪府立中央図書館  
1階 87-88号展示コーナー



ち きょうせい もり  
**知と共生の森**  
 ち とも い  
 - 知と共に生きる -



大阪府立中央図書館  
 1階 かつ及び展示コーナー  
 計画平面図

縮尺 A3:1/100